

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 名古屋市立八熊小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒 454-0013
愛知県名古屋市中川区八熊1-8-30

E-mail : yaguma-e@nagoya-c.ed.jp
 Website : http://www.yaguma-e.nagoya-c.ed.jp/

児童生徒数：男子 159 名 女子 153 名 合計 312 名
 児童・生徒の年齢 7 歳～ 12 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

1 実践の内容

学校のすぐそばを流れる「堀川」を教材化した環境学習に、全学年で取り組んだ。

4年生では、藤前干潟での生き物をきっかけに、身近な堀川の生物や、校内でのツルレイシの成長などの観察を継続して行った。例えば、堀川に生息するチチュウカイミドリガニを仕掛けを設置して捕まえ、水温と捕獲できるカニの数との関係に気付いた。仲間の調べた生き物との様子と比較しながら、1年を通した堀川の生き物の移り変わりを捉えることができた。



【カニの仕掛けを引き上げる子どもたち】

このように、子どもたちは、堀川に関わりながら、季節と生き物、汽水の堀川、堀川と生き物、校庭と堀川の生き物などについて体験を通して学び、身近な堀川にも学んだことがつながっていることを捉えることができた。

また、身近な生活との結びつきが強い「自動車」を各学年共通の素材として取り上げ、エネルギー学習に取り組んだ。

6年生では、手回し発電機による発電やコンデンサーによる蓄電などについて学んだ「科学の知」を生かし、「ビッグカーを動かすだけの電気をためることはできないか」と子どもたちは考えた。太陽光パネルや、自転車による発電など、思い思いの方法で、バッテリーに電気を蓄えることに挑戦した。自分たちが蓄えた電気で、自分が



【ビッグカーを走らせる子どもたち】

乗ったビッグカーが快適に走ることを体験し、発電し、蓄電することの便利さを実感することができた。

このように、手元で試すことができる小さな車「ミニカー」を使って生活科では風やゴムの力で走らせた。3年生からは、「ミニカー」を動かした仕組みで自分も乗れる車「ビッグカー」を動かすことができるかを試した。風やゴム、電気、太陽光、発電・蓄電などで「ビッグカー」の動きを実感する体験を通して、理科で学んだエネルギーが、人が乗れる車にもつながっていることを捉えることができた。

2 成果と課題

「堀川」を素材とした体験の教材化により、子どもたちは、「堀川」の生物や地形、水質等について科学的な見方で捉えることができた。また、身近な環境を捉えるには科学的な見方が役立つことや、よりよい環境作りの見通しを考えるきっかけとすることができた。

「自動車」を共通の素材とした体験の教材化により、「ミニカー」を動かす仕組みが「ビッグカー」に乗って走らせる体験を通して、様々なエネルギーの存在に気付き利用されていることを捉えることができた。

子どもたちは「もっと～な車にしたい」「もっと堀川を～したい」など、理科学習の枠を越えて思いを広げていった。

今後は、子どもの主体性を生かし、学びをより広めたり深めたりするために、他教科や総合的な学習との関わりも含めた環境・エネルギー学習のカリキュラムを再編成していく必要を感じている。これらの思いを受け止めていく工夫が必要である。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用

- ユネスコクラブの活動として実施
- その他 ()